**様式01\_サービスの効果と根拠の証明（導入企業の評価）**

留意点：サービス及び評価者1件ごとに1様式を提出する。サービス提供事業者・導入先企業のいずれが記入することも可とする。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| サービス情報 | 事業者名称 |  |
| サービス名称 |  |
| サービス概要 | 効果の根拠を証明する場合は、以下の**いずれかの**様式に沿って説明すること。様式０１：導入企業の評価様式０２：理論的裏付け様式０３：実証評価 |
| 評価者情報 | 個社ごとの評価結果を根拠とする場合 | ※1社（個社）における評価を根拠とする場合、評価をした雇用主1件ごとに1様式を提出してください。様式はサービス提供事業者、導入事業者のどちらが作成しても構いませんが、企業名を必ず記載してください。企業名：部署名・役職：業種：[ ] 農業、林業・[ ] 漁業・[ ] 鉱業、採石業、砂利採取業・[ ] 建設業、[ ] 製造業、[ ] 電気・ガス・熱供給・水道業、[ ] 情報通信業、[ ] 運輸業、郵便業・[ ] 卸売業、小売業・[ ] 金融業、保険業・[ ] 不動産業、物品賃貸業・[ ] 学術研究、専門・技術サービス業・[ ] 宿泊業、飲食サービス業・[ ] 生活関連サービス業、娯楽業・[ ] 教育、学習支援業・[ ] 医療、福祉・[ ] 複合サービス事業・[ ] サービス業（他に分類されないもの）・[ ] 公務（他に分類されるものを除く）・[ ] 分類不能の産業従業員規模：[ ] 50人未満・[ ] 50人以上1,000人未満・[ ] 1,000人以上10,000人未満・[ ] 10,000人以上 |
| 複数社からのアンケート結果を根拠とする場合 | アンケートの対象及び回答社数：  |
| 実施概要・成果 | （サービス利用者の属性・人数・実施時期・実施期間・実施方法を記載してください。複数社からのアンケート結果を根拠とする場合、アンケートの設問内容を記載してください。） |
| 評価コメント | （下記で選択する「該当する効果」を裏付ける導入企業担当者のコメントや利用者アンケートの結果等を記載してください。） |
| 該当する効果 | **基盤整備**[ ] 法制度対応[ ] 制度・施策体系の整理[ ] 人事・産業保健業務の効率化・負担減[ ] 組織状況の把握[ ] その他（ここをクリックまたはタップしてテキストを入力してください。）**取組の普及・浸透**[ ] サーベイ受検率向上[ ] 相談窓口の利用率・認知率向上[ ] プログラムへの参加率・利用率向上[ ] 不調の早期発見・対応[ ] ヘルスリテラシー・意識の向上[ ] 仕事のストレス要因の低減 | [ ] 心理的安全性・上司のサポート力向上[ ] 周囲のサポート力向上[ ] その他（ここをクリックまたはタップしてテキストを入力してください。）**心の健康・業務パフォーマンス関連**[ ] 生活習慣指標の改善[ ] 健康状態・心理指標の改善[ ] アブセンティーズム改善[x] プレゼンティーズム改善[x] ワーク・エンゲイジメント向上[ ] 従業員エンゲージメント向上[ ] 労務指標の改善（離職率、残業時間など）[ ] その他（ここをクリックまたはタップしてテキストを入力してください。） |

**様式02\_サービスの効果と根拠の証明（理論的裏付け）**

留意点：根拠とする理論的枠組み1件ごとに1様式を提出すること。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| サービス情報 | 事業者名称 |  |
| サービス名称 |  |
| サービス概要 |  |
| 理論的枠組みの名称、提唱者（氏名・所属・専門、掲載文献等） | デジタルを活用した介入手法の場合の該当有無：[ ] 認知行動療法　[ ] マインドフルネス　 |
| 論的枠組みの活用方法 | （提供するサービスに当該枠組みをどう活用しているかを記載してください。） |
| 該当する効果 | **基盤整備**[ ] 法制度対応[ ] 制度・施策体系の整理[ ] 人事・産業保健業務の効率化・負担減[ ] 組織状況の把握[ ] その他（ここをクリックまたはタップしてテキストを入力してください。）**取組の普及・浸透**[ ] サーベイ受検率向上[ ] 相談窓口の利用率・認知率向上[ ] プログラムへの参加率・利用率向上[ ] 不調の早期発見・対応[ ] ヘルスリテラシー・意識の向上[ ] 仕事のストレス要因の低減 | [ ] 心理的安全性・上司のサポート力向上[ ] 周囲のサポート力向上[ ] その他（ここをクリックまたはタップしてテキストを入力してください。）**心の健康・業務パフォーマンス関連**[ ] 生活習慣指標の改善[ ] 健康状態・心理指標の改善[ ] アブセンティーズム改善[ ] プレゼンティーズム改善[ ] ワーク・エンゲイジメント向上[ ] 従業員エンゲージメント向上[ ] 労務指標の改善（離職率、残業時間など）[ ] その他（ここをクリックまたはタップしてテキストを入力してください。） |

**様式03\_サービスの効果と根拠の証明（実証評価）**

留意点：根拠とする実証1件ごとに1様式を提出すること。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| サービス概要 | 事業者名称 |  |
| サービス名称 |  |
| サービス概要 | 次頁以降の記載例を参考にしてください。 |
| 実証デザイン | 介入・観察対象 |  |
| 介入・要因 |  |
| 比較対象 |  |
| アウトカム |  |
| 実証結果 |  |
| 学術介入有無（選択式） | [ ] A.学術研究機関等による科学的な効果検証​[ ] B.学術研究機関等が介在しない独自の効果検証​ | （学術介入有りの場合）氏名・所属・専門、掲載文献・発表した学会・演目名​ |
| エビデンスの水準（選択式） | [ ] A.ランダム化比較試験（介入研究）​[ ] B.非ランダム化比較試験（介入研究）​[ ] C.単純前後比較などの準実験的研究（介入研究）​ | [ ] D.コホート研究（観察研究）​[ ] E.横断研究または症例対照研究（観察研究）​ |
| 該当する効果 | **基盤整備**[ ] 法制度対応[ ] 制度・施策体系の整理[ ] 人事・産業保健業務の効率化・負担減[ ] 組織状況の把握[ ] その他（ここをクリックまたはタップしてテキストを入力してください。）**取組の普及・浸透**[ ] サーベイ受検率向上[ ] 相談窓口の利用率・認知率向上[ ] プログラムへの参加率・利用率向上[ ] 不調の早期発見・対応[ ] ヘルスリテラシー・意識の向上[ ] 仕事のストレス要因の低減 | [ ] 心理的安全性・上司のサポート力向上[ ] 周囲のサポート力向上[ ] その他（ここをクリックまたはタップしてテキストを入力してください。）**心の健康・業務パフォーマンス関連**[ ] 生活習慣指標の改善[ ] 健康状態・心理指標の改善[ ] アブセンティーズム改善[ ] プレゼンティーズム改善[ ] ワーク・エンゲイジメント向上[ ] 従業員エンゲージメント向上[ ] 労務指標の改善（離職率、残業時間など）[ ] その他（ここをクリックまたはタップしてテキストを入力してください。） |

**様式03a\_サービスの効果と根拠の証明（実証評価）**

留意点：根拠とする実証1件ごとに1様式を提出すること。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| サービス概要 | 事業者名称 | A社 |
| サービス名称 | 「ストレスチェック実施者を対象とした追加オプションプログラム」 |
| サービス概要 | ストレスチェック制度支援サービスのオプションサービスであり、ストレスチェックの個人結果返却の際に、認知行動療法プログラム(CBT)「XXXXXXX」に希望者がアクセスし、オンラインで提供される心理士面談の中で認知行動アプローチ等によるストレスマネジメントスキル（XXXX、XXXXX、XXXXX、XXXXX）を学習する。学習により抑うつなどのメンタルヘルス不調の予防・改善、ワーク・エンゲイジメントの向上、ストレスの軽減が期待できる。 |
| 実証デザイン | 介入・観察対象 | XXXX企業XXX社に勤務するXXXXX従業員（介入群、対照群各XXX名） |
| 介入・要因 | プログラム(CBT)（週XX回XXXレッスン）。ただし実証時にはXXXXXXXXXXXXX、XXXXXXXXXXXXXXXの機能がついたプログラムを使用した。 |
| 比較対象 | 対照群は、通常の産業保健サービスのみを利用可 |
| アウトカム | プライマリアウトカム：抑うつ（BDI-II尺度）、セカンダリアウトカム：ワーク・エンゲイジメント(ユトレヒト・ワーク・エンゲイジメント尺度)、心理的ストレス反応（職業性ストレス簡易調査票） |
| 実証結果 | 対象者は、介入群または対照群に無作為に割り当てられた（各グループXXX名）。介入群は、XXXXXXを用いたX週間のXレッスンからなるプログラム(CBT)が提供された。抑うつおよびワーク・エンゲイジメントは、ベースライン時とXXX月後およびXXX月後のフォローアップ時に測定された。介入群におけるプログラム実施率は、プログラムあたりの平均がXX%、全プログラム完遂率はXX％であった。介入群では対照群とくらべて、抑うつおよびワーク・エンゲイジメント、参加者の不安感が有意に改善していた（P < XXX）。XXX月後のフォローアップにおける効果量はいずれもXXXでXXXXであった。プログラム利用時の有害事象は評価していない。本プログラムは、抑うつおよびワーク・エンゲイジメント、不安感の改善に効果があると考えられる。 |
| 学術介入有無（選択式） | [x] A.学術研究機関等による科学的な効果検証​[ ] B.学術研究機関等が介在しない独自の効果検証​ | （学術介入有りの場合）氏名・所属・専門、掲載文献・発表した学会・演目名​XXXXXXXX |
| エビデンスの水準（選択式） | [x] A.ランダム化比較試験（介入研究）​[ ] B.非ランダム化比較試験（介入研究）​[ ] C.単純前後比較などの準実験的研究（介入研究）​ | [ ] D.コホート研究（観察研究）​[ ] E.横断研究または症例対照研究（観察研究）​ |
| 該当する効果 | **基盤整備**[ ] 法制度対応[ ] 制度・施策体系の整理[ ] 人事・産業保健業務の効率化・負担減[ ] 組織状況の把握[ ] その他（ここをクリックまたはタップしてテキストを入力してください。）**取組の普及・浸透**[ ] サーベイ受検率向上[ ] 相談窓口の利用率・認知率向上[ ] プログラムへの参加率・利用率向上[ ] 不調の早期発見・対応[ ] ヘルスリテラシー・意識の向上[ ] 仕事のストレス要因の低減 | [ ] 心理的安全性・上司のサポート力向上[ ] 周囲のサポート力向上[ ] その他（ここをクリックまたはタップしてテキストを入力してください。）**心の健康・業務パフォーマンス関連**[ ] 生活習慣指標の改善[x] 健康状態・心理指標の改善[ ] アブセンティーズム改善[ ] プレゼンティーズム改善[x] ワーク・エンゲイジメント向上[ ] 従業員エンゲージメント向上[ ] 労務指標の改善（離職率、残業時間など）[ ] その他（ここをクリックまたはタップしてテキストを入力してください。） |

**様式03b\_サービスの効果と根拠の証明（実証評価）**

留意点：根拠とする実証1件ごとに1様式を提出すること。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| サービス概要 | 事業者名称 | B社 |
| サービス名称 | 「管理職のメンタルヘルス対策への取組意欲の向上を目的としたXX介入プログラム」 |
| サービス概要 | 本プログラムは管理職を対象とし、職場におけるメンタルヘルスに関する問題の対応と予防の当事者意識を高めることを主な目的とし、①XX介入実施前アンケート、②XX介入、③XX介入後の事後アンケートによる情報提供から構成される。XX介入では、心理職が実施マニュアルに従って１回XX分のXX介入を行い、事前アンケートの結果に基づくコメントや取組意欲向上のために助言を行う。 |
| 実証デザイン | 介入・観察対象 | XXXX企業の管理職従業員のうち同意を得たXXXX名。 |
| 介入・要因 | 上記「管理職のメンタルヘルス対策への取組意欲の向上を目的としたXX介入プログラム」と同一 |
| 比較対象 | 介入前のアウトカム測定値 |
| アウトカム | 心理的ストレス反応（職業性ストレス簡易調査票）、ウェルビーイング（日本語版WHO-5） |
| 実証結果 | 20XX年5～7月に研究参加者を募集し、XXX名が介入実施前調査（T1）に回答し、XX名がXX介入実施から１か月後、T2調査に回答した（追跡率XX.X%）。解析の結果、T2調査時点で参加者の不安感（心理的ストレス反応の下位尺度の１つ）が有意に改善し（d=XXX,p=XXX）。回答者のXX割程度がプログラムに満足、XX割程度が心の健康を保つ役に立ったと回答した。プログラム利用時の有害事象は評価していない。本プログラムは管理職のXXXXXXXの改善に有効である可能性がある。 |
| 学術介入有無（選択式） | [x] A.学術研究機関等による科学的な効果検証​[ ] B.学術研究機関等が介在しない独自の効果検証​ | （学術介入有りの場合）氏名・所属・専門、掲載文献・発表した学会・演目名​○○、他.XXXXXX. 第XX回XXXX学会、XX年X月XX～XX日. |
| エビデンスの水準（選択式） | [ ] A.ランダム化比較試験（介入研究）​[ ] B.非ランダム化比較試験（介入研究）​[x] C.単純前後比較などの準実験的研究（介入研究）​ | [ ] D.コホート研究（観察研究）​[ ] E.横断研究または症例対照研究（観察研究）​ |
| 該当する効果 | **基盤整備**[ ] 法制度対応[ ] 制度・施策体系の整理[ ] 人事・産業保健業務の効率化・負担減[ ] 組織状況の把握[ ] その他（ここをクリックまたはタップしてテキストを入力してください。）**取組の普及・浸透**[ ] サーベイ受検率向上[ ] 相談窓口の利用率・認知率向上[ ] プログラムへの参加率・利用率向上[ ] 不調の早期発見・対応[ ] ヘルスリテラシー・意識の向上[ ] 仕事のストレス要因の低減 | [ ] 心理的安全性・上司のサポート力向上[ ] 周囲のサポート力向上[ ] その他（ここをクリックまたはタップしてテキストを入力してください。）**心の健康・業務パフォーマンス関連**[ ] 生活習慣指標の改善[x] 健康状態・心理指標の改善[ ] アブセンティーズム改善[ ] プレゼンティーズム改善[ ] ワーク・エンゲイジメント向上[ ] 従業員エンゲージメント向上[ ] 労務指標の改善（離職率、残業時間など）[ ] その他（ここをクリックまたはタップしてテキストを入力してください。） |

**様式03c\_サービスの効果と根拠の証明（実証評価）**

留意点：根拠とする実証1件ごとに1様式を提出すること。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| サービス概要 | 事業者名称 | C社 |
| サービス名称 | 「ストレスチェック集団分析結果に基づく職場のストレス要因の可視化プログラム」 |
| サービス概要 | 本サービスは、XXXXXXXXXXXXストレスチェックの集団分析結果を用いて、その組織のストレス要因を可視化するものである。このシステムを利用した集団分析により、組織の健康経営目標に応じて職場環境改善の必要性を判断したり優先順位を決めることが容易になり、企業内におけるストレスチェック制度の集団分析と、それぞれのストレス要因に合わせた職場環境改善を推進に貢献する。 |
| 実証デザイン | 介入・観察対象 | XXXグループ企業の中堅職員XXX万人（具体的対象者数は非公開） |
| 介入・要因 | XXXXXストレスチェックの集団分析結果のクラスター分析 |
| 比較対象 | なし |
| アウトカム | １年後の精神健康[心理的ストレス反応(得点)、高ストレス者(該当)、うつ病の発症(有り)]、ウェルビーイング[仕事満足度(高)、ワークエンゲイジメント(得点）]、生産性[アブセンティズム(月5日以上)、生産性(0-10点)]　※本サービスに含まれるメンタルヘルス不調による長期疾病休業はアウトカムとして含まれていなかった。 |
| 実証結果 | クラスター分析を行い、各ストレス要因を構成する要素の得点を算出したところ、１．XXXXX、2．XXXXX、3．XXXXXの３つのパターンが明らかになった。解析の結果、ストレスチェックから１年後の精神健康が有意に改善した（p=XXX）。本サービスを用いてストレス要因の可視化をすることで、組織での集団分析の有効活用につながり、その後の職場に合わせた環境改善のアプローチが促された可能性がある。 |
| 学術介入有無（選択式） | [x] A.学術研究機関等による科学的な効果検証​[ ] B.学術研究機関等が介在しない独自の効果検証​ | （学術介入有りの場合）氏名・所属・専門、掲載文献・発表した学会・演目名​XXXXXX. 第XX回XXX学会 |
| エビデンスの水準（選択式） | [ ] A.ランダム化比較試験（介入研究）​[ ] B.非ランダム化比較試験（介入研究）​[ ] C.単純前後比較などの準実験的研究（介入研究）​ | [x] D.コホート研究（観察研究）​[ ] E.横断研究または症例対照研究（観察研究）​ |
| 該当する効果 | **基盤整備**[ ] 法制度対応[ ] 制度・施策体系の整理[ ] 人事・産業保健業務の効率化・負担減[x] 組織状況の把握[ ] その他（ここをクリックまたはタップしてテキストを入力してください。）**取組の普及・浸透**[ ] サーベイ受検率向上[ ] 相談窓口の利用率・認知率向上[ ] プログラムへの参加率・利用率向上[ ] 不調の早期発見・対応[ ] ヘルスリテラシー・意識の向上[x] 仕事のストレス要因の低減 | [ ] 心理的安全性・上司のサポート力向上[x] 周囲のサポート力向上[ ] その他（ここをクリックまたはタップしてテキストを入力してください。）**心の健康・業務パフォーマンス関連**[ ] 生活習慣指標の改善[ ] 健康状態・心理指標の改善[ ] アブセンティーズム改善[ ] プレゼンティーズム改善[ ] ワーク・エンゲイジメント向上[ ] 従業員エンゲージメント向上[ ] 労務指標の改善（離職率、残業時間など）[ ] その他（ここをクリックまたはタップしてテキストを入力してください。） |